

至心

麻生学園小学校だより
平成 27 年 10 月 31 日
第 7 号

トッポをめざせ!

高い学力 豊かな情操

「確かな学力」について

校長 今村 隆 信

学園祭ではどの学年もすばらしい表現活動をお見せできたのではないかと自負しています。表現活動を見ながら、立派な姿を見せることができるのは学力の高さと豊かな情操の表れであると思いました。学力の高さが結果としてすばらしい表現に結びついているのだと確信を持ちました。

今回は、2002年ごろから文部科学省が提唱し、「学びのすすめ」として基本方針を出して現在に至っている「確かな学力」について考えてみたいと思います。

2002年という、学力の低下が問題視され始めた年です。それまでも子どもたちの「生きる力」を育成することが我が国の教育にとって重要であることが言われてきました。

「生きる力」とは、① 自分で考え判断し、行動する力 ② 正義感や倫理観等の豊かな人間性 ③ 健康や体力 であると規定されました。この「生きる力」を学校だけではなく、家庭・地域と協働して育むことが指摘されました。そして、「生きる力」を育むことがすべての学校のミッションになりました。学力低下の問題が吹き出した頃から、生きる力を支えるものは、「確かな学力」だと言われるようになったのです。

「生きる力」が知・徳・体の全面にわたる全人的な力を指していたのに対し、「確かな学力」は、その知の側面だけを示す用語であると限定し、その上で「知識や技能の修得」を明示しました。「知識や技能」が明記されたことは大きな意味があり、それをもって「知識と技能」と「自主的、主体的な問題解決能力」とが、ともにバランスよく追求されるべきであると見なされました。

子どもたちの判断力、表現力、行動力などもその根底にあるものは確かな学力ですよということなのです。逆に言えば、「知識や技能」の習得がきちんと行われないと判断力、表現力も本物になりませんということなのです。

この「知識・技能」の習得においては習熟・定着の確かさが問われることとなります。つまり、「内容上の正確さ」が中心となります。身についた知識・技能の正しさが常に保たれていなければならないということなのです。

また、知識・技能が「基礎」だと言われるのは、発展や活用の場面で生かされるからこそなのです。

これらの考え方や内容・方法を積極的に取り入れているのが、本校の1年生から3年生の「基礎・基本の充実」と「定着の時間」の取り組みなのです。もちろん4年生以上にも基礎基本の定着は当然のことなのです。

では、本年度文部科学省が実施した「全国学習状況調査」(いわゆる全国学力テスト)の結果を紹介します。

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
全国 (国公立)	70, 2	65, 6	75, 3	45, 2	61, 0
福岡県	69, 8	65, 1	74, 7	44, 2	59, 5
佐賀県	70, 4	64, 6	74, 6	43, 7	61, 0
本校	87, 0	74, 9	89, 0	59, 1	66, 3

本校の子どもたちの知識・技能の定着の度合いはかなり高いということがおわかりいただけたと思います。

これからも、子どもたちの「確かな学力」を育み、さらに向上させるための取り組みに全力をあげていくことをお約束いたします。

言葉が世界をつくる

国語専科 福丸 美紀

「曖昧」「センスが物を言う」・・・国語科のイメージをそんなふうにとらえている人もいますが、決してそんなことはありません。国語科とは大変「論理的」な教科です。問題を解く時には、自らの「考え」とその「根拠・理由」を関連付けたり、筋道を立てて表現したり、理解したり、評価したりする力(=論理的思考力)を駆使し、正解に迫っていかねばなりません。特に入試対策授業においては、子供たちに「何となくではダメ、論理的に考え、論理的に解く」という学び方を徹底させているところなのです。一方、この「論理的思考力」を根底で支える力のことも忘れてはいけません。「語彙力」です。難しい題材文を読むときだけでなく、簡単な文章を読むにあたって、子供たちの「言葉の乏しさ」には愕然とすることがよくあります。言葉を知らなければ、理解することも表現することもできません。たとえば「心情をとらえる」学習をするとき、「悲しい」「うれしい」「楽しい」・・・この程度という言葉しか出てこないとしたら、もっと微妙な、もっと複雑な心情を読み取ることも伝えることもできないということになります。

「世界は『言葉』がなければ『ただ一つの何か』であり、人間が言葉によって『差異』を生み出すことで『もの』が生まれる。『言葉』がなければ世界は存在しない。」(言語学者ソシュール)

これは一つの真実だと思います。まさに「言葉が世界をつくる」です。言葉がないということは、「もの」もないということ。言葉をたくさん持つことが深い理解や豊かな表現につながっていくのです。子供たちの語彙を増やす方法の一つとして、授業の中では、「言い換える」ということを重視しています。例えば「かわいそう」という言葉。言い換えれば? 「気の毒」「憐れむ」「同情」「憐憫」・・・次々に言い換えていくことで言葉の多様性に気づくことができ、語彙も増えていきます。私たち大人が子供たちの語彙を増やすために果たす役割は大きいと思います。何気ない会話の中にもなるべくたくさんの多様な言葉を用いるように心がけていきたいものです。

学園祭では、どの学年も素晴らしい演技を披露してくれました!

また、体験活動ではサポーターのご協力、ありがとうございました。



11月	行事予定	12月	行事予定
1 日	入学試験	1 火	
2 月	チャレンジ登山(弁当)	2 水	知のオリンピック
3 火	文化の日	3 木	
4 水	社会科見学(3年) しょうゆ物知り博士(5年)	4 金	
5 木	実力テスト(3~6年) 乳の食育(1, 2年)	5 土	
6 金	スナックスクール(3, 4年)	6 日	
7 土	おいもパーティー(2年) 弘学園中入試説明会	7 月	個人懇談(～12日)
8 日		8 火	縦割りランチ(弁当)
9 月	委員会 入試相談週間(6年)	9 水	
10 火	縦割りランチ(弁当)	10 木	
11 水		11 金	
12 木		12 土	
13 金		13 日	
14 土		14 月	委員会
15 日		15 火	
16 月		16 水	
17 火		17 木	マナーランチ(5年)
18 水	味覚教室(4, 5年)	18 金	
19 木		19 土	クラブ
20 金		20 日	
21 土		21 月	
22 日		22 火	大掃除
23 月	勤労感謝の日	23 水	天皇誕生日
24 火		24 木	特別学習
25 水		25 金	特別学習
26 木	か加龍舞(3年) マナーランチ(3, 4年)	26 土	特別学習
27 金		27 日	
28 土	クラブ	28 月	
29 日		29 火	
30 月		30 水	
		31 木	

○チャレンジ登山について

天拝山(低学年)、基山(中学年)、宝満山(高学年)にチャレンジします。持ち物などは学級通信でご確認ください。

※ 雨天時もお弁当・水筒は必要になりますので、お間違えの無いようにお願いします。

○冬服について

11月より、子どもたちの服装は冬服(ジャケット、ネクタイ・リボン、ハイソックス(紺)、紺色の帽子)となります。通学中は必ず着用となりますので、準備の方をお願いします。